

烏臼ハ漢種ナリ、今諸國ニ栽ル者多シ、ソノ葉形圓ニ扁クシテ尖リアリ、數多ク互生ス、嫩ナルハ色紅、長ズレバ色綠、枝葉甚繁密ニシテ、日光ヲ透サズ、納涼ニ宜シ、故ニ依鴉白影ト云、夏月枝梢ゴトニ花穂ヲ生ズ、長サ三四寸、黃白色ニシテ粟穂ノ如シ、穂ノ本ニ實ヲ生ズ、形圓微扁ニシテ三道アリテ、續隨子ノ如シ、初ハ綠色、熟スレバ黑褐色、コレヲ破レバ三子アリ、大サ豆ノ如シ、外ニ白粉アリテ核ヲ包ム、唐山ニテハコノ白粉ヲ採リ、製シテ蠟トス、烏臼蠟ト云、唐山ニテ漆及ハゼノ實ヨリ蠟ヲ採ルコトナク、烏臼實ヨリ採ノミナリ、其蠟蟲白蠟ヨリ柔ニシテ上品トス、是ヲ皮油品字ト云、白粉ノ内ニ硬核アリ、ソノ内ニ仁アリ、仁ヨリ採ル油ヲ清油物理小識、木油南寧府志ト云、食用ニ堪ヘズ、惟燈油トナシ、傘ニ用テヨク水ヲ防グト云フ、コノ蠟及ビ油ヲ採ル法、天工開物ニ詳ナリ、秋ニ至リ落葉ノトキ、紅紫ニシテ美シ、故ニナンキンハゼト云、

増蘭山翁今諸國ニ栽ユル者多シト云ハ穩ナラズ、此木本邦ノ地ニ應ゼザルニヤ、稀ニコレヲ栽ユル者アリト雖ドモ、ソノ實輕虛ニシテ、内ニ核ナキユヘ蒔テ生ゼズ、又壓條、接換、扦插共ニ活セズ、故ニ一根ヲ得ルモ容易ナラズ、余謙梯近年コレヲ殖スノ妙法ヲ得タリ、其法春月大サ筆管以上ノ根ヲ堀リ、地上ニ出スコト一寸許ニシテ、コレヲ栽ユベシ、速ニ芽ヲ發シテ生長ス、奇術ト謂フベシ、

〔古今要覽稿草木〕烏臼木

烏臼木とうはせ、なんきんはせ本草啓蒙この木秋の末紅葉鮮麗にしてながめあるものなり、近年異邦より來る大和本草といへば、古はなきものにて、和歌に詠るものにもあらざれど、其紅葉賞すべきものなり、烏臼は本邦のかへでなどよりも早く染はじむるものにて、九月初より色づくもの也、陸放翁が詩に、烏臼微丹菊漸開といへる句によく附合せり、西土にては楓につゞきて、烏臼の霜葉を愛せり、花鏡に秋晚葉紅可觀、亦秋色之不可少者といへり、また宗袁聚謂、烏臼紅爲丹楓と、そ